平成 26（2014）年度　教員活動報告書（1/10）

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	杉本（スギモト）　星子（セイコ）

学歴	昭和52年 3月　南山大学文学部人類学科卒業 昭和57年 3月　南山大学大学院文学研究科（博士前期課程）文化人類学専攻修了 昭和59年10月　名古屋大学大学院文学研究科東洋史専攻研究生「平2.3月まで」 平成 2年 3月　インド・マドラス大学地理学科研究生「平3.2月まで」 平成 6年 4月　インド・デリー大学社会学科研究生「平7.3月まで」 平成 9年 3月　総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻（博士後期課程）単位取得満期退学 平成12年10月　オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ 客員研究員（professor）「平13.3月まで」
学位	昭和57年 3月　文学修士（南山大学） 平成10年 9月　文学博士（総研大乙第55号）
専門分野	社会人類学
専門資格	中学校社会科・高等学校地理教員資格、博物館学芸員資格
所属学会	昭和57年10月　日本文化人類学会 昭和60年 4月　日本オセアニア学会 昭和61年 4月　マダガスカル研究懇話会 平成 3年 7月　日本南アジア学会 平成19年 4月　日本野蚕学会
受賞	
担当授業科目	**学　部** 文化人類学演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ、フィールドワーク実習A-Ⅰ・Ⅱ、実践人類学実習Ａ・Ｂ、文化の経済学、インドの歴史と文化、文化人類学、多文化共生論、情報化社会と地域デザイン、プロジェクト科目、総合社会学演習Ⅰ **大学院** 文化人類学基礎研究法演習Ⅰ・Ⅱ、文化人類学研究法演習Ⅰ・Ⅱ、現代文化研究演習Ⅷ（家族文化論）
論文指導	論文指導担当[主査]（卒論： 8名、修論： 2名） 修士論文審査[主査]（修論： 2名）

ＦＤ活動・教育実績

科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数
プロジェクト科目「京巨椋池野菜スイーツプロジェクト」	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	春 ・ 秋	９名

授業の概要： 大学に隣接する巨椋池干拓地の農作物のブランド化をテーマに、実践型の教育をおこなっている京都府立京都すばる高等学校と連携し、地元農作物を使ったカフェ・メニューの創作・提案に向けて、消費者ニーズの分析やコンセプトワークによる企画と企画商品の市場導入のためのプラニング、マーケティングについて学習した後、伏見龍馬通り商店街のカフェ「月のとき」の顧客調査をおこない、具体的なメニューを提案した。

教育活動の振り返り：

① 商品開発においてすでに数々の実績のある京都すばる高等学校企画科長貴島良介教諭の指導の下で、受講生が商品開発やマーケティングの基礎についてわかりやすくまた具体的に学ぶことができ、高大連携教育のメリットが改めて認識された。

FD活動・教育実績つづき	② 受講生9名を3グループに分け、巨椋池干拓地の黒米を使った甘酒を使ったドリンク、スイーツ、フードのメニューを開発し、カフェ「月のとき」でプレゼンテーションを行い、経営者や調理人の立場から評価をいただくことで、実践的な学びができた。 ③ 実際にカフェにメニューを提案することで、受講生のモチベーションが高まり、授業時間外にも会合をもったり自宅でメニューの試作を繰り返すなど、積極的に授業に参画した。授業での学びが目に見える形で社会につながることにより、教育効果が高まったと考えられる。 ④ ドリンク、スイーツ、フードという課題によって、製品化の難易度が異なったため、グループによる学びの充実度に差異ができた。製品化の難易度と学習の難易度はかならずしも一致しないことが、こうした実践的な学習の難しさであることが明らかになった。 **教育活動の成果：** 受講生は授業の振り返りにおいて、自分が思っていた以上に力をだすことができた、プロジェクトに取り組んだことで自分に自信がついたとのべている。また、本プロジェクトは、秋学期のプロジェクト科目合同発表会において最優秀賞をとったことから、学生たちはそれぞれに達成感を得ることができた。受賞は、プロジェクトをとおした学びの内容およびプレゼンへの真摯な取り組みが評価されたものと考える。 **今後の課題：** ① プロジェクト科目は必修科目であり、かつ履修登録は早いもの順で、受講生のほとんどはその他の授業との関連であいた時間にある科目を選択するため、授業開始時の受講生のモチベーションは必ずしも高くない。授業内容に関心のある学生が履修できるシステムを考える必要がある。 ② 本授業では、京都すばる高等学校とカフェ「月のとき」の協力により充実した学習ができたが、こうした地域連携を今後も継続していくためには、大学として地域連携のための制度をさらに整え充実させていく必要がある。 ③ 半期の授業で、実践的なプロジェクトの実施に加えて合同発表会の準備までさせなくてはならないので、一回の授業内容が盛りだくさんになり、授業時間が足りない。合同発表会は効果があるとはいえ、ほんとうに必要なのか再検討する必要があるかもしれない。
	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 ・ 地域公共政策士（文化コーディネーター、地域マネージャー、グローカル人材）の人材育成に関する学内外でのさまざまなセミナー等に参加。
	・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 ・ 正規授業時間外での学生相談･学生指導（オフィスアワー等での相談、資格取得に伴う個別指導）は、日常的に行っている。 ・ 向島ニュータウンにおいて学生サークル「文教ストリート」が実施している小学生の学習支援に、顧問としてサポートしている。 ・ 向島ニュータウンの地域交流拠点「京都文教マイタウン向島」における子どもの日のプラレール大会、東日本震災避難者主催のお裁縫会、写真展企画をはじめとする様々なイベントの実施に、学生とともに参画し、学生の実践的な学びをサポートした。 ・ 京都市の助成により本学学生・伏見区青少年活動センター・京都市住宅供給公社学生センター・向島まちづくり協議会が連携してアジア・アフリカ映画祭を実施。学生の映画祭運営をサポートした。 ・ 宇治市男女共同参画課主催の映画祭および併設イベントに学生と共に参画し、学生の実践的な学びをサポートした。 ・ 河北新報・京都新聞・京都文教大学・向島ニュータウン地域住民等の連携による防災ワークショップ京都「むすび塾」の実行委員長として企画の運営に関わり、地域住民や本学学生とともに障がい者・中国帰国者・外国人留学生など災害時の要支援者サポートについて検討した。

平成 26（2014）年度　教員活動報告書（3/10）

H26 年度 研究課題	1．シルクをめぐる経済人類学的研究 2．ローカルメディア研究 3．ニュータウン研究
平成二十六（2014）年度の研究活動の概要	**1.シルクをめぐる経済人類学的研究** ・ 南インド・タミルナードゥ州クンバコーナムのシルク産業の現状について現地調査を実施した。〈後述：**（調査活動）**〉 ・ タイ・チェンマイで開かれた学会で民芸運動とキモノ雑誌による紬と沖縄染織の流行の創出について発表した。〈後述：**（学会報告、学会活動）**2〉 ・ 西陣お召しについて、絣工場、糸店でインタビューをおこない、西陣のきもの産業の現状について調査研究をおこなった。〈後述：**（調査活動）**〉 ・ 米沢織および川俣シルクについて現地調査をおこなった。〈後述：**（調査活動）**〉 **2．ローカルメディア研究** ・ 地域SNS「お茶っ人」を運営する宇治大好きネットの副理事長として、ローカルなWebネットワークの活動に参画しながら、地域SNSについての研究を継続。 ・ 「文化人類学演習Ⅰ・Ⅱ」と「情報化社会と地域デザイン」の受講学生が11月から3月にかけて京都リビングFMで番組「文教ラジオサテライト」（毎月第四水曜日12:00～12:30）を企画・制作・放送。そのサポートを通して、ローカルラジオの現状について聞き取りなどをおこなった。 **3．ニュータウン研究** ・ 本学のニュータウンに関するこれまでの協働研究の成果をまとめ、書籍として出版。〈後述：**（著書）**〉 ・ 向島ニュータウンの地域交流拠点「京都文教マイタウン向島」における子どもの日のプラレール大会、東日本震災避難者主催の写真展企画をはじめとする様々なイベントの実施。
平成二十六（2014）年度の主な研究成果等	**（著書）** 1．『京都発！ニュータウンの「夢」建てなおします ―向島からの挑戦―』、共著、平成27年3月、昭和堂、共編者：小林大祐・西川祐子、256p
	（論文） 1．「エスニック・ファッション（12．生活文化 内）」、単著（当該部分）、平成26年7月、丸善出版、国立民族学博物館編、『世界民族百科事典』（pp.442-443）
	（学会報告、学会活動） 1．学会報告（共同）“Dynamics of Religious Spaces and Multiplicity of Factors: A Case Study of Thiruppuranbiyam in Tamilnadu, India”,IGU, Krakow, （2014.8.19） 2．学会報告（単独）“Authorizing the Artistic Local Textiles and Artisans in Japan: a Focus on the Role of Kimono Magazines”, IIAS Roundtable Chiang Mai: Cloth, Culture and Development, Chang Mai University,24-25 Aug.（2014） 3．学会報告（単独）“ The Japan Sari”India and Japan :Road to Modern, International Conference organized by East Asia Program, Institute of Chinese Studies, Delhi. 12-13 Sep.（2014）
	（その他、エッセイ・翻訳・学術講演等） **書評：** 1．「松尾瑞穂『ジェンダーとリプロダクションの人類学 ―インド農村社会の不妊を生きる女性たち』（昭和堂・2013年）」、単著、平成27年2月、現代インド地域研究INDAS 現代インド研究第5号（pp.258-261） **その他：** 1．「『源氏』的なるものと宇治 ―地域文化資源を活用したまちの活性化をめざして―」（パネルディスカッション・コーディネーター）、平成27年2月、第77回宇治市歴史資料館歴史講座・京都文教大学地域公共政策士資格プログラム・京都文教大学学芸員講座地域連携フォーラム

平成 26（2014）年度　教員活動報告書（4/10）

平成二十六（2014）年度の主な研究成果等	**（調査活動）** 平成26年 8月　インド・タミルナードゥ州マドラスおよびタンジャーヴール県にてシルク産業調査および村落社会調査 平成26年10月-平成27年3月　西陣織協働組合および西陣お召し調査 平成26年12月-平成27年1月　モーリシャス・インド移民の民話調査 平成27年 3月　1．米沢・川俣において織物産業の現状調査 2．福島・石巻において東日本大震災復興支援活動としての「手づくり品」の制作・流通調査
	（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含） 平成20年度－平成25年度 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 地域研究推進事業現代インド地域研究 国立民族学博物館拠点 拠点プロジェクト「環流する現代インド文化」（研究代表者：国立民族学博物館・教授 杉本良男）研究分担者 平成23年度－平成28年度 科学研究費補助金（基盤研究A、課題番号23251010）「インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究」（研究代表者：東京外国語大学アジア･アフリカ言語文化研究所 小田淳一）研究分担者 平成25年度－平成27年度 科学研究費補助金（基盤研究B、課題番号25285109）「インドにおける都市消費市場の構造と農村・都市間の物的人的循環：生活文化の視点から」（研究代表者：名城大学・経済学部・准教授 杉本大三）研究分担者 平成26年度－平成28年度 国立民族学博物館共同研究「現代『手芸』文化に関する研究」（研究代表者：国立民族学博物館・文化資源研究センター・准教授 上羽陽子）共同研究者 平成26年度－平成29年度 科学研究費補助金（基盤研究A、課題番号26245033）「アジア地域における布工芸品の生産・流通・消費をめぐる文化人類学的研究」（研究代表者：岡山大学・社会文化科学研究科・教授 中谷文美）研究分担者 平成26年度－29年度（大学COC事業） 京都文教大学地域協働研究教育センター共同研究「京都南部・向島地域のニュータウンにおける大学・住民協働のまちづくり研究」研究代表者
	（学内活動） 自己点検・大学院委員会委員、博物館学芸員講座委員、大学間連携共同教育推進事業委員会（地域資格）委員、文化コーディネーター養成プログラム委員
平成二十六（2014）年度の社会における活動	**（NPO法人等の団体への参画）** ・ 一般法人「千里文化財団」理事「平24.4より」 ・ 特定非営利活動法人「まちづくりネットうじ」賛助会員「平21.4より」 ・ 特定非営利活動法人「宇治大好きネット」副理事長「平26.4より」 ・ 公益財団法人京都地域創造基金 事業指定助成プログラム選考委員「平22.4より」 ・ 特定非営利活動法人きょうとNPOセンター・市民活動総合センター運営委員「平23.4より」 ・ 京都文教マイタウン向島運営委員会委員「平25.1より」 **（自治体や企業における研修等の講師）** 平成27年 3月　宇治市男女共同参画支援センター 楽しく学ぶ人絹講座④女性の人権 映画上映「マダム・イン・ニューヨーク」映画解説、於：同センター

平成 26（2014）年度　教員活動報告書（5/10）

平成二十六（2014）年度の社会における活動	**（その他）** 平成26年10月　平成26年度京都文教公開講座「京都文教教養講座」・総合社会学部テーマ：「ひびく、つなぐ、むすぶ」講師、「心をつなぐ手づくり市」、於：京都文教大学 平成27年 2月　1．宇治市民ICT（Information and Communication Technology）活動10周年記念事業「未来へつなぐまちづくり ―かんたん安心インターネット―」、企画およびトークセッション「未来のまちづくり―みんなをつなぐICT」コーディネーター、於：京都大学黄檗キャンパス 2．河北新報・京都新聞・京都文教大学・向島ニュータウン地域住民等の連携による防災ワークショップ京都「むすび塾」実行委員長、於：向島ニュータウン（京都市伏見区）
平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等	**（著書）** 1．『サリー！サリー！サリー！ ―インド・ファッションをフィールドワーク』、単著、平成21年10月、風響社、京都文教大学文化人類学ブックレット№2（76p） 2．「『日本人のライフ・ヒストリー』　鶴見和子著」、単著、平成22年8月、嵯峨野書院、小林多寿子編著、『ライフストーリー・ガイドブック』（pp.222-225） 3．「家族・親族・婚姻」、単著、平成22年10月、世界思想社、田中雅一・田辺明生編、『南アジア社会を学ぶ人のために』（pp.34-45） 4．'Sociocultural Frame, Religious Networks, Miracles: Experiences from Tsunami Disaster Management in South India,' 共著(Seiko Sugimoto, Antonysamy Sagayaraj, and Yoshio Sugimoto), in Karan, P.P.& S.Subbiah (eds.) The Indian Ocean Tsunami, The Global Response to a Natural Disaster, The University Press of Kentucky: 213-235.　平成22年12月 5．『情報化時代のローカル・コミュニティ ―ICTを活用した地域ネットワークの構築』、共著（杉本星子編）、平成24年8月、国立民族学博物館調査報告№106（247p） 6．「パドマ・サーリヤル〈タミルナードゥ州〉 ―南インドの伝統的な織工カースト」、単著、平成24年8月、明石書店、金基淑編、『エリア・スタディーズ108　カーストから現代インドを知るための30章』（pp.93-100） 7．「コング・ヴェッラーラ〈タミルナードゥ州〉 ―タミルナードゥ州西部の有力農民カースト」、単著、平成24年8月、明石書店、金基淑編、『エリア・スタディーズ108　カーストから現代インドを知るための30章』（pp.119-127） **（論文）** 1．「なぜ、Cerachia appolina、ダブル繭なのか？」、共著、平成21年8月、日本野蚕学会報No.64、共著者：赤井弘・石川達也・乾こゆる・長島孝行、『野蚕－新素材シルクの研究開発』（pp.9-10） 2．「マダガスカルの野蚕･家蚕産業の発展に向けた染織実験」、共著、平成21年8月、日本野蚕学会報№64、共著者：高橋裕博、『野蚕－新素材シルクの研究開発』（pp.10-11） 3．「京都山城地域SNSお茶っ人」、共著、平成21年9月、学芸出版社、共著者：中村俊二、季刊まちづくり24号（pp.80-83） 4．PROJECT「ICTネットワーキングのエスノグラフィーに向けて 共同研究：地域SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究、単著、平成22年9月、民博通信№129 5．「マダガスカル家蚕シルク織物生産の歴史と現状」、単著、平成24年3月、飯田卓編『マダガスカル地域文化の動態』国立民族学博物館調査報告SER103（pp.259-274） 6．「序論：情報化時代のローカル・エスノグラフィー」、単著、平成24年8月、国立民族学博物館調査報告№106『情報化時代のローカル・コミュニティ―ICTを活用した地域ネットワークの構築』（pp.3-11）

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等

（論文　つづき）

7．「地域SNSの日記コミュニティ ―『書くこと・読むこと』が紡ぐローカルネットワーク」、単著、平成24年8月、国立民族学博物館調査報告№106『情報化時代のローカル・コミュニティ―ICTを活用した地域ネットワークの構築』（pp.179-203）

8．「描かれた「宇治」 ―宇治市源氏物語ミュージアム収蔵資料の地域文化資源としての活用に向けて―」、共著、平成26年3月、共著者：家塚智子、京都文教大学 総合社会学部研究報告第16集（pp.1-14）

9．「横浜市工業技術支援センター所蔵スカーフ資料にみるアジア・アフリカ市場向け輸出スカーフの流通ネットワークと現地ファッションの変化」、単著、平成26年3月、横浜市経済局中小企業振興部工業技術支援センター、地域資源（横浜スカーフ）の活用による産業活性化事業『横浜スカーフ調査報告書』（pp.47-54）

（学会報告、学会活動）

1．「地域SNSによる「地域」の再構築」（発表）、単独、平成21年5月、日本文化人類学会第43回研究大会分科会「地域SNSの現場から ―ローカルネットワークとローカルコミュニティを再考する―」（分科会コーディネーター）、大阪国際交流センター

2．「マダガスカルの野蚕・家蚕産業の発展に向けた染織実験」、共同、平成21年6月、共同発表者：高橋裕博、日本野蚕学会第15回大会、富岡製糸場

3．「南インドの独立後のサリーファッションの展開と「サウス・シルク」」、単独、平成21年10月4日、日本南アジア学会第22回全国大会テーマ別発表4、北九州市立大学北方キャンパス

4．「The Expansion of Consumption in Rural Areas of Tamil Nadu and the Development of “South Silk”」、共同、平成21年10月、科学研究費補助金（基盤研究B・一般）「インドにおける消費パターンの変動と経済成長、1950-80年：中下層階層を中心に」（課題番号19330074，研究代表者：千葉大学・人文社会科学研究科・教授 柳澤悠）公開シンポジウム、東京外国語大学

5．「SNSエスノグラフィーのジェンダー空間」、単独、平成22年2月、国立民族学博物館共同研究「地域SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究」（研究代表者：京都文教大学・人間学部・教授 杉本星子）研究会、国立民族学博物館

6．“ Toward the Extrication from Heartache: A Case Study of the Reconstruction of a “Village Temple” by Tsunami Victims in North Chennai”, 2010 AAG(Association of American Geographers) Annual Meeting, 15-19 April, Washington DC.　平成22年4月19日

7．総合討論（ディスカッサント）、The Second International Conference on Culture Wear and Diaspora Museum 、平成22年8月、国立民族学博物館

8．“The Ecosystem of the Habitat of Wild Silk Moths and the Traditional Silk Production System of the Central Plateau of Madagascar”, 6th　International Conference on Wild Silk moths, International Society for Wild Silk moths, Sept.21-23　(Tokyo University of Agriculture)、平成22年9月

9．「アルゲマ・ミトゥレイの資源調査と養蚕・製糸・製織技術の開発」、共同、平成23年9月、共同発表者：高橋裕博、第17回日本野蚕学会、京都工業繊維大学

10．“Session 1: Creating Public Sphere”（コメンテーター）, International Symposium “Media and Power in South Asia-with special reference to contemporary circumstances of media and society in India-“, National Museum of Ethnology, 平成23年12月、National Museum of Ethnology, Osaka

11．「タンジャーヴール県ティルップランビヤム村落調査報告」、 平成24年3月、文科省科学研究費補助金基盤研究(B)「独立後インドの消費行動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」研究会（研究代表者：東京大学　柳沢悠）、東京大学

平成 26（2014）年度　教員活動報告書（7/10）

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等

（学会報告、学会活動　つづき）

12.「シルクの島マダガスカル ―多様な野蚕と土着化した家蚕」、 平成24年3月、マダガスカル研究懇談会、国立民族学博物館

13．報告「横浜シルクスカーフ」、単独、平成24年7月、国立民族学博物館機関研究「布と人間の人類学的研究」研究会、国立民族学博物館

14．報告“Japanese Handkerchiefs, Scarves and Sarees for the Indian Ocean Markets”, 単独, the International Conference on Textile Trades and Consumption in the Indian Ocean World, Indian Ocean World Centre, McGill University, 2-4 November 2012、11月4日

15．コメントおよびパネルディスカッション“第一部：大規模災害時にローカルメディアが果たす役割 ―日本からのコメント”、共同、平成24年11月、国際シンポジウム「大規模災害とコミュニティの再生」、国立民族学博物館

16．報告「Kumudamの広告分析 ―サリーと耐久消費財の消費をめぐる考察」・「南インド社会の構造変動と消費行動 ―クンバコーナム近郊農村の事例研究」、単独、平成25年3月、科学研究費補助金（基盤研究B、課題番号22330100）「独立後インドの消費変動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」研究会、東京大学

17．「アジア・アフリカ向け日本製プリントテキスタイルの輸出とインド商会」、単独、平成26年2月、現代インド地域研究 国立民族学博物館拠点MINDAS「環流する現代インド文化」（研究代表者：国立民族学博物館・教授 杉本良男）2013年度第4回合同研究会、国立民族学博物館

18．「インド調査2013：クンバコーナム」、共同、平成26年2月、共同発表者：杉本良男、文科省科学研究費助成事業共同研究会、新潟情報大学

19．「インド手織りサリーの黄昏」、単独、平成26年3月、文科省科学研究費助成事業共同研究会「インドにおける都市消費市場の構造と農村・都市間の物的人的循環：生活文化の視点から」（研究代表者：名城大学・准教授 杉本大三）、名城大学

（その他、エッセイ・翻訳・学術講演等）

1．「多様な野蚕と家蚕の宝庫　知られざるシルクの島マダガスカル」、単著、平成21年8月、染織と生活社、染織情報α（pp.2-3）

2．「21世紀アジア社会の人類学：回顧と展望　総論」、共同、平成21年12月、南山大学人間学研究所創立60周年記念シンポジウム、南山大学人間学研究所

3．「虫に学ぶ、虫と生きる:天然資源としての昆虫の可能性を考える」（解説）、共同、平成21年12月、NPO法人アースネットネットワーク主催「生物多様性からみた持続可能な天然資源としての染料・薬用植物と天然繊維 ～種の存続と人間の生産活動の持続可能性を求めて～」サイエンスカフェ2、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

4.「マダガスカル・ワイルドシルク紀行～島固有種の多様性と生態環境」（オープニング講演）、単独、平成22年9月、第四回ワイルドシルク・フェスタ（主催：ワイルドシルク協議会）、東京農業大学

5．「文化人類学のフィールドワーク教育と大学の地域連携活動」、共著、平成24年3月、企画・監修：京都文教大学人間学部文化人類学科、平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択「文化コーディネーター養成プログラム～モノ・ひと・地域を活かす大学ミュージアムを活用した実践的人材育成教育」大学間連携研究会報告書（80p）

6．「2011年度第1回研究会「心のバリアフリーからはじまる『まちづくり』：愛知県の2つのニュータウンにおける実践報告」」、共著、平成24年3月、京都文教大学人間学研究所共同研究プロジェクト「リバイビング・ニュータウン：住民主体のコミュニティ再活性化にむけた研究」、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.12（pp.37-76）

7．講演（第16回マダガスカル研究懇談会（大会））報告「シルクの島マダガスカル ―多様な野蚕と土着化した家蚕―」、単著、平成24年11月、マダガスカル研究懇談会会報ニュースレター『SERASERA』（pp.1-4）

（その他、エッセイ・翻訳・学術講演等　つづき）

8．話者「シルクの島マダガスカル ―島固有の野蚕と土着化した家蚕」、単独、平成25年6月、みんぱくウィークエンド・サロン―研究者と話そう 第301回、国立民族学博物館

（調査活動）

平成22年 3月	インド調査（科学研究費補助金課題番号20251011：後述）
平成23年 2月- 3月	インド（チェンナイ・クンバコーナム）における社会変化調査
平成23年 8月	マダガスカル調査
平成23年 8月- 9月	南インド調査（科学研究費補助金課題番号22330100：後述）
平成24年 8月	中国東北地方視察（新学術研究領域「ユーラシア地域大国の比較研究」、於：北海道大学スラブ研究センター
平成24年8月・9月	インド・タミルナードゥ州タンジョール県における都市・村落調査（科学研究費補助金課題番号22330100：後述）
平成25年 3月	モーリシャス・マダガスカルにおける口承伝承調査（科学研究費補助金課題番号23251010：後述）
平成25年 8月-9月	インド農村の社会変化調査（インド・タミルナード州）
平成25年 9月	モーリシャスのインド移民における口承伝承調査（モーリシャス）
平成25年度（通年）	横浜市工業技術支援センター所蔵輸出スカーフ資料調査

（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含）

平成18年度-平成21年度

国立民族学博物館共同研究「マダガスカルの文化的多様性に関する研究」（研究代表者：国立民族学博物館・文化資源研究センター・准教授 飯田卓）館外研究員

平成19年度-平成21年度

科学研究費補助金（基盤研究B・一般）「インドにおける消費パターンの変動と経済成長、1950-80年：中下層階層を中心に」（課題番号19330074，研究代表者：千葉大学・人文社会科学研究科・教授 柳澤悠）研究分担者

平成19年度-平成22年度

国立民族学博物館共同研究「地域SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究」研究代表者

平成20年度-平成22年度

科学研究費補助金（基盤研究A・海外学術）「大規模災害被災地における環境変化と脆弱性克服に関する研究」（課題番号20251011，研究代表者：国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授 林勲男）研究分担者

平成20年度-平成25年度

大学共同利用機関法人人間文化研究機構 地域研究推進事業現代インド地域研究 国立民族学博物館拠点 拠点プロジェクト「環流する現代インド文化」（研究代表者：国立民族学博物館・教授 杉本良男）研究分担者

平成22年度-平成24年度

国立民族学博物館機関研究「布と人間の人類学的研究」（研究代表者：国立民族学博物館・教授 関本照夫）共同研究員

平成22年度-平成24年度

科学研究費補助金（基盤研究B）「独立後インドの消費変動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」（課題番号22330100，研究代表者：東京大学・東洋文化研究所・名誉教授 柳澤悠）研究分担者

平成23年度-（6年間）

科学研究費補助金（基盤研究A、課題番号23251010）「インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究」（研究代表者：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 小田淳一）研究分担者

平成 26（2014）年度　教員活動報告書（9/10）

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等

（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含　つづき）

平成25年度－（3年間）

科学研究費補助金（基盤研究B、課題番号）インドにおける都市消費市場の構造と農村・都市間の物的人的循環：生活文化の視点から」（研究代表者：名城大学。准教授・杉本大三）研究分担者

（学内活動）

平成19年 4月　FW実習委員会委員「平23.3まで」
平成20年 4月　博物館学芸員講座委員「現在に至る」
教育GP「文化コーディネーター養成プログラム～モノ・ひと・地域を活かす大学ミュージアムを活用した実践的人材育成教育」委員長「平23.3まで」
大学院委員会委員「平26.3まで」
平成22年 4月　広報委員会委員「平23.3まで」
自己点検・大学院委員会委員「現在に至る」
自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平24.3まで」
学生委員会委員「平24.3まで」
平成23年 4月　学生相談室運営委員会委員「平24.3まで」
就業力育成支援委員会委員「平24.3まで」
平成24年 4月　入試実行委員会委員「平25.3まで」
高大連携委員会委員「平25.3まで」
大学間連携委員会〈現・大学間連携共同教育推進事業委員会（地域資格）〉委員「現在に至る」
文化コーディネーター養成プログラム委員「現在に至る」
平成25年 4月　入試委員会委員「平26.3まで」

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の社会における活動

（自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託）

平成25年 4月　横浜市経済局中小企業振興部工業技術支援センター「横浜スカーフ研究会」メンバー「平26.3まで」

（NPO法人等の団体への参画）

平成19年 4月　京都山城地域SNS「お茶っ人」運営会役員「平23.3まで」
平成21年 4月　特定非営利活動法人「まちづくりネットうじ」賛助会員「現在に至る」
平成22年 4月　公益財団法人京都地域創造基金 事業指定助成プログラム選考委員「現在に至る」
特定非営利活動法人「宇治大好きネット」理事（副理事長「平26.4より」）「現在に至る」
平成23年 4月　特定非営利活動法人きょうとNPOセンター・市民活動総合センター運営委員「現在に至る」
平成24年 4月　一般法人「千里文化財団」理事「現在に至る」
平成25年 1月　京都文教マイタウン向島運営委員会委員「現在に至る」

（小中高との連携授業の講師）

平成24年11月　京都文教高等学校2年ALP「世界を駆ける子猫『キティ』を考える」、於：同校
平成26年 2月　京都文教短期大学付属小学校 国際教育、「インドの文化」、於:同校

（自治体や企業における研修等の講師）

平成24年 6月　報告「京都文教大学の多文化共生地域連携活動」、多文化施策談話会（京都市国際交流課）、於：国際交流会館
平成24年 7月　講演「地域力を鍛える！ ―京都文教大学の試みから―」、平成宇治ライオンズクラブ例会、於：宇治第一ホテル

平成 26（2014）年度　教員活動報告書（10/10）

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の社会における活動	**（その他）** 平成21年 4月　巨椋池干拓地環境保全ワークショップ委員「平26.3まで」 平成22年度　第2回まちづくりシンポジウム「ともに生きる地域（まち）づくり ―現場から多文化社会を考える」企画実施・パネラー（平成22年12月）ほか、教育GP関連地域連携活動多数 平成25年 1月　京都文教マイタウン向島運営委員会委員「現在に至る」